

障害者が“自立生活”を選ぶ。

INDEPENDENT LIVING

インディペンデント
リビング

監督：田中悠輝 プロデューサー：鎌仲ひとみ

撮影：辻井深 / 岩田まき子 / 田中悠輝

編集・構成：辻井深 製作：ぶんぶんフィルムズ

製作協力：全国自立生活センター協議会 / 自立生活夢宙センター

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 キリン福祉財団 / 全国自立生活センター協議会

2019 日本 98分 | カラー | DCP | ドキュメンタリー ©ぶんぶんフィルムズ

bunbunfilms.com/filmil

ぜんぶ抱えてワガママに生きる。

舞台は障害当事者が運営する自立生活センター。そこは“生きづらさ”を抱えた人が“自分らしさ”を取り戻す場所。



リスクを負ってでも手にしたい“自由”がある。 自由を手にすることでしか、みつからない“自分”がいる。

物語の舞台は大阪にある自立生活センター。ここは障害当事者が運営をし、日常的に手助けを必要とする人が、一人で暮らせるよう支援をしている。先天的なものだけでなく、病気や事故などにより様々な障害を抱えながら、家族の元や施設ではなく、自立生活を希望する人たち。自由と引き換えに、リスクや責任を負うことになる自立生活は、彼らにとってまさに“命がけ”のチャレンジだ。家族との衝突、介助者とのコミュニケーションなど課題も多く、時に失敗することもある。しかし、自ら決断し、行動することで彼らはささやかに、確実に変化をしていく――。



体が動かなくても、想いが伝えられなくても、 どこまでも“自分らしく”ありたい。

監督は自らも介助者として働く田中悠輝。障害当事者からの「自分たちの姿を撮って欲しい」という声を受け、自立支援の現場で3年にわたり撮影を続けた。彼らとの関わりを通して、自分自身の内に「障害者」という勝手な枠組があると気づいた監督が、その枠組を壊し、自分を、社会を、変えていこうと奮闘する人々を見つめ、“生きづらさ”を抱えた人たちが、“自分らしさを”取り戻す瞬間とその輝きを映し出す。

主な登場人物



フチケン

事故で頸髄を損傷、首から下に麻痺がある。20年近く介護を担っていた母親の死を機に、自立生活を始める。



たいき

脳性麻痺と知的の障害当事者。18歳まで入所していた施設を出て、自立生活を始める。



あっすー

知的と精神の障害当事者。てんかんのような発作に悩まされながら、自立生活を目指す。母親と、時に衝突が起きる。



トリス

くも膜下出血により高次脳機能障害となり、右半身の麻痺と失語症がある。自立生活を目指してセンターを訪ねる。

自立生活センターとは？

重度の障害があっても地域で自立して生活ができるように、必要なサービスを提供する事業体であり、同時に障害者の権利の獲得を求める運動体である。センターは障害当事者により運営され、身体障害に限らず、知的、精神の障害者のサポートもしている。1972年、アメリカ・カリフォルニア州に世界初の自立生活センターが誕生。1986年に日本でも初めての自立生活センターが生まれた。2019年現在、全国に121の自立生活センターがある。

bunbunfilms.com/filmil [f @Independent.Living.documentary](https://www.facebook.com/Independent.Living.documentary)

本作は通常上映が【バリアフリー上映(日本語字幕つき、音声ガイド【UDcast方式】つき)】となります。詳細は映画公式サイトをご確認ください。



2020年春、公開!

特別鑑賞券¥1,300(税込)好評発売中!(当日一般¥1,800のところ)
(車椅子をご利用の方へ)映画公式サイトにて事前予約を承ります。よろしければご利用ください。

渋谷・文化村前交差点左折
ユーロスペース
EUROSPACE
03(3461)0211 eurospace.co.jp

